



**•Tackle Guide**  
 船長が推奨する泳がせの仕掛けはヒラメ用。できればハリス8号以上の太仕掛けをおすすめする。マダイ仕掛けは細くても4号。青物対策に6号のハリスも用意しておきたい。

イが姿を見せないことから7時半に沖へ移動。移動した場所の水深は18メートル、船長からの指示ダナは12メートルだ。私がトモで様子をうかがっている、「ミヨシのお仲間が掛けたよ」と船長が叫んだ。

**当日のタックル**  
 竿=フリーオマスター 真鯛EX  
 リール=シーボーク 300J  
 ハリ=マタイ9号

**常連さんにカンパチが**  
 その後マダイからのラブコールがなかったことから、8時40分に灘寄りへと移動。この水深は7〜12メートルと起伏の激しい地形となっ

▼ルアーでアカハタがヒット



「あれはサンマをヒラマサが追いかけているんだよおー」

「ほらほら見てみなあー」と指さす先を見るとバシヤバシヤと数多くのベイトが海面から飛び上がった後に大きな魚がドパンと跳ねた。

「これはサンマをヒラマサが追いかけているんだよおー」

「この流しで揚がりますしよ」と言う船長の言葉で泳がせは不発かと仕掛けを回収していると、置き竿にしていたイサキ仕掛けの竿がクンクンとお辞儀していた。そのまましているとギョングューン

**船宿information**  
 南房相浜港  
**良栄丸**  
 ☎0470-28-2153  
 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=泳がせ・コマセ五目乗合一人1万円(水付き)  
 ▶備考=予約乗合、出船時間は電話確認。コマセや付けエサは各自持参



今回は泳がせ釣りとマダイは不発に終わってしまったが、各自キープサイズのイサキを15尾前後確保できたのは何よかったです。



▲沖で釣れる冬場のメジナはおいしいと評判



▲アジ泳がせで狙う南房のカンパチは年内有望  
 ▼イサキは20〜35センチ級と大中小交じり



**狙う魚はお客さん次第**  
 今回のターゲットはグループさんたちのリクエストで、泳がせの後にコマセマダイを

通常は指示ダナよりハリス分下ろしてコマセを振りながらタナまで上げてくるのだが、この場所のタナはおおむね海底より5メートルほど上と

のがセオリーだ。塙君が30センチのイサキを釣り上げたところで、「変な魚が釣れたよ」と左トモで声が出た。行ってみると佐々木さんが釣り上げていたのはイトフエフキ。塩焼きにするとおいしい魚だ。その後もイサキやらメジナやらが釣れたが、本命のマ

が釣れないと精神的にはきついよ」と漁師なまりで話してくれる気さくな船長。そんな船長の人柄にひかれて通う常連さんも多く、今回は私たち2名のほかには黒田さんをリーダーとした常連さん3名のグループで出船となった。

1時間ほどアジ釣りに専念したが、釣果0と想定外の結果に終わってしまった。「明るくなるとアジは釣れなくなるからマダイ仕掛けに替えて。タナは海面から9メートルですよ」と残念ながら今回の泳がせ釣りはお預けとなり、同じ場所でマダイ釣りにシフトチェンジする。コマセマダイのタナ取りは

**知得! Tips and Tricks 2本竿のすすめ**

良栄丸は4〜5人て出船する機会が多く、常連さんたちは竿を2本出す方がほとんど。泳がせとコマセマダイ。根魚とイサキなど組み合わせは様ざま。その代わり、付けエサや仕掛けは各自用意する必要がある。3キロのオキアミブロック、サバの切り身、冷凍イワシなどを持ち込んで色いろと楽しもう。



# フリーなスタイルが魅力 南房相浜沖のコマセ五目

●南房相浜港発↓相浜沖  
 本誌ABC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

11月12日、釣友の塙君とともに南房相浜港の良栄丸へと車を走らせた。良栄丸ではキントキや浅場のカサゴやアカハタ、コマセマダイなどを看板にしている船宿で、一番人気は釣った小

アジをエサにしてカンパチやヒラメを狙う泳がせ釣りだ。渡辺良男船長は釣り船を始めて30年以上のベテランで、「漁をしていたころは体がぎつかったけど、釣り船は体が楽になった代わりにお客さん

するとというプランだ。5時15分になり5名を乗せて岸壁を離れる。15分ほどでポイントに到着すると、「水深は15メートル。タナは海面から数えて10メートルでやっ」と船長の合図でエサのアジ釣りが開始される。昨年の取材ではゾロゾロとアジが掛かったが、この日は潮が速くアジの群れがすぐに船下を通り過ぎてしまいうせいでまったく釣れない。

●すずき よしかず/今回の取材でタックルケースを忘れてしまい、仕掛けやらハリやらを常連さんたちから分けていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。